

芸術の秋。生徒たちの作品披露

10月1日（日）、町歴史文化伝承館（旧水元小学校）で、「鶴の舞橋アートフェアふれあいコンサート」が開催され、9月に行われた映画や絵本、写真の講習会で、受講生が制作した作品が発表されました。

絵本講座の作品発表では、津軽富士見湖に迷い込んだワニに、ツルがクイズを出しながら鶴田町を案内する絵本「つるのなぞときさんぽ」を、講師を務めた「聞かせ屋。けいたろう」さんが読み聞かせしました。

また、映画講座のショートムービーや写真講座の組み写真が発表されたほか、町の町民教養講座で津軽三味線を指導する葛西頼之さんが生徒と一緒に「津軽じょんがら節」などの曲を演奏しました。



△「つるのなぞときさんぽ」を読み聞かせするけいたろうさん



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

本場のパエリアの味に舌つづみ

アジアパエリア協会公認のパエリア師、由利拓也さんが10月2日（月）、町の相撲道場を訪れ、子どもたちにパエリアを振る舞いました。

由利さんは今年9月にスペインで開催されたパエリアの世界大会に日本代表として出場。「本場のパエリアを食べてもらい、多くの人に興味を持ってもらいたい」という思いから、12月まで全国を巡り、パエリアを振る舞う旅を続けています。

この日は、スペインのバレンシア地域伝統の「バレンシアーナ」と、エビやイカ、シジミを使ったパエリアを調理。子どもたちは「食べたことない味だ」「今まで食べた料理の中で一番おいしい」と満足げに話し、何回もおかわりしていました。



△相撲道場の子どもたちにパエリアを振る舞った由利さん（前列右）

書家・吉澤秀香さんが書を寄贈

10月4日（水）、弘前市の書家、吉澤秀香さんが町役場に相川町長を訪ね、「鶴雲」と揮毫した額入りの書を町に寄贈しました。

「鶴雲」は春分の日に出るという白鶴に似た雲を表すお祝いの言葉。今回、鶴の舞橋やスチューベン、国際交流など、鶴田町の魅力に感銘を受け、寄贈をしてくれました。吉澤さんは、「以前から「鶴雲」の字を書きたい思いがあった。町民の皆さんが読みやすいように、優しい筆遣いで書き上げました」と話しました。相川町長は「おめでたい書を寄贈していただき、大変ありがたいです。町民の皆さんの目に見える場所に飾り、いつまでも大事にしたいです」と感謝の言葉を贈りました。



△「鶴雲」と揮毫した書を寄贈した吉澤さん（左）



△自慢の頭部にひもが付いた吸盤を付け、引っ張り合う参加者

中秋の名月に輝く頭の熱戦

中秋の名月にあたる10月4日（水）、ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）の秋の例会「中秋の有多毛」が山田温泉で開かれました。

例会には県内外から約40人が参加。須郷会長は「来年は会発足30年を迎える。さらなる発展を目指したい」とあいさつ。会場では、十五夜の月に見立てた頭を絵の穴から出して誰の頭かを当てる「名月当てクイズ」や、額にひもが付いた吸盤をつけて引っ張り合う「吸盤綱引き対決」が行われました。今回から入会した浅野幹雄さん（宮城県）は、「吸盤綱引きは負けてしまったけれども、2月22日の新春の例会ではリベンジしたい」と意気込んでいました。

食生活改善の功績へ大臣表彰

町食生活改善推進協議会の木村夢知子会長が、食生活改善活動への功労が認められ、厚生労働大臣表彰を受賞しました。10月13日（金）には町役場に相川町長を訪ね、「会員みんなで獲った賞なので嬉しい」と受賞の喜びを報告しました。

同会では、総合健診時の朝食提供や小学校での調理実習などを行い、町民の食生活改善と健康増進に努めています。同会は平成18年に同賞を受賞。27年には日本食生活協会「南・賀屋賞」を受賞しています。相川町長は「町民の健康を支援してきた会の皆さんの活動の成果です」と称えると、木村会長は「今後も町民の皆さんの食生活改善のお手伝いをしていきたい」と述べていました。



△受賞の喜びを相川町長に報告した木村さん（左）